

株主の皆様へ



森下仁丹株式会社

第69期事業報告書

(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

ごあいさつ

株主の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて第69期の業績ですが、私を始めとして経営陣を刷新し新体制でスタートし、事業構造の変革を目指して積極的な改革に取り組んでまいりました。

しかしながら、カプセル受託事業においては海外大口取引先の在庫調整による受託量の大幅な減少とロート製薬株式会社との共同販売会社である「株式会社メディケアシステムズ」の設立に伴うコストが予想外に増加するなど当期の業績につきましては不本意な結果となりました。また、前期に引き続き無配となり、株主の皆様には深くお詫び申し上げます。

新年度につきましては、本年2月に発表しました「構造改革」の更なる徹底と、「森下仁丹株式会社経営革新計画Ⅱ（略称JMIⅡ）」に沿った強固な経営基盤の確立に努めてまいります。

ここに、当社グループの第69期（平成17年4月1日から平成18年3月31日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。よろしくご高覧賜り、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



代表取締役社長
相原之壽

事業の概況

さて、個人消費が底堅さを増し景気も着実に回復を続けているとの動きが報道されているなか、第69期の概況につきましては、極めて厳しい結果となりました。

昨年4月に代表取締役社長の交替を行い経営陣を刷新し、事業構造の変革を目指しましたが、カプセル海外大口受託先の在庫調整による大幅な受託量の減少というマイナス面が大きく影響しました。その結果、当連結会計年度の売上高は98億1千2百万円（前期比26億2千3百万円減）となりました。

分野別では、ヘルスケア分野につきましては、大手食品・医薬品メーカーの新規参入による競争激化、同業他社の不祥事例（アガリクス、ダイエット等）発生による当局の指導強化および消費者の購入意欲の低下等により売上高は54億6千9百万円（前期比11億4千8百万円減）と減少いたしました。具体的には、「緑茶青汁」は積極的な販促活動の実施により売上高は回復したものの、「ピフィーナ」は類似名称による他大手食品メーカーの進出により苦戦を強いられました。当社グループ創業来の「銀粒仁丹」類および液体歯磨きの「ハピカ」を主とするオーラルケア分野および創傷被覆材「メディケア」を主とするメディカルケア分野では、ロート製薬株式会社との共同販売会社である株式会社メディケアシステムズの新設（平成17年7月）に伴う流通在庫調整ならびに同社経由となった販売システムの変更により売上高は減少し、オーラルケア分野の売上高は4億1千6百万円（前期比2億8千8百万円減）、メディカルケア分野の売上高は6億5千3百万円（前期比2億7千3百万円減）となりました。カプセル受託事業分野につきましては、プロバイオティックカプセルが好調であったものの、海外大口受託先の在庫調整によるフレーバーカプセルの受託量の大幅な減少が影響し、売上高は23億3千万円（前期比9億6千2百万円減）となりました。

損益につきましては、ヘルスケア、オーラルケア分野およびカプセル受託事業分野の売上が大きく減少し、固定費負担を支えきれず、7億2千9百万円（前期比12億1千9百万円減）の営業損失の計上を余儀なくされました。また、借入金圧縮

による支払利息の削減は出来たものの、在庫処分を積極的に実施したため9億8千8百万円（前期比12億7千4百万円減）の経常損失となりました。当期純損益につきましては、本年2月に公表しましたとおり抜本的な経営体質の強化のため構造改革を実施し、思い切った在庫処分、希望退職募集により特別損失5億6百万円を計上、一方本社土地建物および投資有価証券の一部売却を実施し、13億2千2百万円の特別利益を計上し、結果として連結当期純損失は1億8千9百万円となりました。

配当につきましては、前期に引き続き無配をお願いせざるを得ません。株主の皆様には大変ご迷惑をおかけすることとなり、心よりお詫び申し上げます。

新事業年度につきましては、本年2月に公表いたしました「構造改革」の更なる徹底と、新事業年度を初年度とする新中期計画『JMIⅡ』（森下仁丹株式会社経営革新計画Ⅱ）の主旨に沿い、迅速な業績改善に努め、安定した黒字経営基盤確保を目指して効率的な事業運営に努力いたします。具体的には、

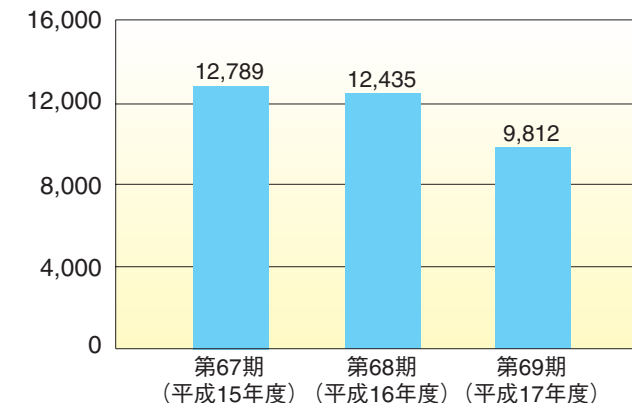
- ①ヘルスケア事業においては、構造改革により営業・開発・生産を一元管理する社内体制の整備が整ったことから、既に、スピードのある新製品開発を進めており、新事業年度は新製品開発ならびに顧客指向に徹した既存製品のリニューアルを展開し、通信販売部門を主軸として収益の拡大に邁進してまいります。国内小売店販売部門については、平成17年7月に設立したロート製薬株式会社との共同販売会社を通じて顧客ニーズに応じた新製品販売および既存製品の改廃に努力し収益の増加を目指してまいります。また、本年5月23日に公表した新中期計画の主要戦略であるブランド戦略、商品戦略などの具体化を徹底し、早期における効果具現化を目指してまいります。
- ②カプセル受託事業に関しては、既存の海外向けフレーバーカプセル受託事業の安定確保に加え、国内外の受託先の新規契約獲得に注力いたします。また、当社独自の腸溶性シームレスカプセルを使ったプロバイオティック製品に加え、特許技術である耐熱・耐寒・抗揮散の皮膜技術を駆使した高付加価値製品の受託先の確保ならびに医薬品分野での製剤受託先の拡大に努力してまいります。耐熱・耐寒・抗揮散カプセルは、国内外の熱処理や冷凍化の必要な食品メーカーやセイボリー（調味料）分野の企業からの受注が大いに期待されます。

以上の施策を実行することにより、安定した収益体質への転換を図り、黒字経営を指向してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

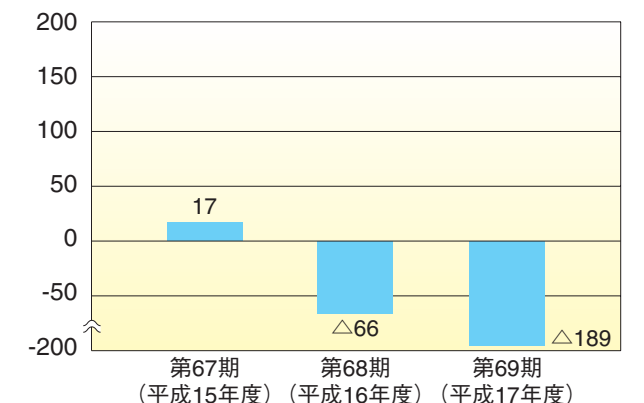
◆ 売上高（連結）

（単位：百万円）



◆ 当期純利益（連結）

（単位：百万円）



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	当連結会計年度 (平成18年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成17年3月31日現在)
(資産の部)			
I 流動資産		4,768	6,424
現金及び預金		1,180	623
受取手形及び売掛金		1,583	3,377
繰上り延滞金		1,868	2,290
その他の流動資産		5	—
II 固定資産		131	134
(1)有形固定資産		4,930	5,457
建物及び構築物		3,974	4,109
機械装置		1,977	2,031
運搬工具等		1,086	1,175
土地		804	805
建物		102	97
構築物		1	—
(2)無形固定資産		104	118
ソフトウェア		851	1,229
その他無形固定資産		656	928
(3)投資有価証券		193	300
III 繰上り延滞資産		—	26
資産合計		9,698	11,908
(負債の部)			
I 流動負債		3,623	5,717
支払手形及び買掛金		1,269	1,829
短期借入金		1,482	2,701
商品及び材料		25	115
繰上り延滞金		847	1,071
II 固定負債		1,683	1,633
長期借入金		1,087	1,045
その他固定負債		593	588
負債合計		5,306	7,351
少数株主持分		—	—
(資本の部)			
I 資本金		3,537	3,537
II 資本剰余金		963	1,379
III 利益剰余金		△ 232	△ 458
IV その他有価証券評価差額金		178	151
V 自己株式		△ 54	△ 52
資本合計		4,392	4,557
負債、少数株主持分及び資本合計		9,698	11,908

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	当連結会計年度 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
I 売上高		9,812	12,435
II 売上原価		5,106	5,815
売上総利益		4,705	6,620
III 販売費及び一般管理費		5,435	6,130
営業利益		△729	489
IV 営業外収益		31	74
V 営業外費用		290	278
経常利益		△988	286
VI 特別利益		1,322	91
VII 特別損失		506	654
税金等調整前当期純損失		173	276
法人税、住民税及び事業税		21	10
法人税等調整額		△5	△219
当期純損失		189	66

連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科目	期別	当連結会計年度 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
(資本剰余金の部)			
I 資本剰余金期首残高		1,379	4,092
II 資本剰余金増加高		—	1
III 資本剰余金減少高		415	2,714
IV 資本剰余金期末残高		963	1,379
(利益剰余金の部)			
I 利益剰余金期首残高		△458	△3,933
II 利益剰余金増加高		415	3,542
III 利益剰余金減少高		189	67
IV 利益剰余金期末残高		△232	△458

貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	当期 (平成18年3月31日現在)	前期 (平成17年3月31日現在)
(資産の部)			
I 流動資産		4,728	6,386
現金及び預金		1,148	595
受取手形及び売掛金		1,582	3,380
たな卸資産		1,845	2,278
その他の流動資産		150	131
II 固定資産		4,952	5,510
(1)有形固定資産		3,973	4,108
建物及び構築物		1,977	2,031
機械装置		1,086	1,175
土地		804	805
その他の有形固定資産		101	95
建設仮勘定		1	—
(2)無形固定資産		104	118
(3)投資その他の資産		875	1,284
投資有価証券		692	971
その他の投資		181	312
III 繰延資産		—	26
資産合計		9,681	11,923
(負債の部)			
I 流動負債		3,573	5,688
支払手形及び買掛金		1,269	1,828
短期借入金		1,482	2,701
返品調整引当金		25	115
その他の流動負債		794	1,044
II 固定負債		1,681	1,633
長期借入金		1,087	1,045
その他の固定負債		592	588
負債合計		5,255	7,322
(資本の部)			
I 資本金		3,537	3,537
II 資本剰余金		963	1,379
III 利益剰余金		△ 199	△ 415
当期末処理損失		199	415
IV その他有価証券評価差額金		178	151
V 自己株式		△ 54	△ 52
資本合計		4,425	4,600
負債・資本合計		9,681	11,923

損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	当期 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)	前期 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
I 売上高		9,477	12,186
II 売上原価		5,136	5,808
売上総利益		4,341	6,377
III 販売費及び一般管理費		5,149	5,893
営業利益		△ 808	484
IV 営業外収益		54	74
V 営業外費用		281	277
経常利益		△ 1,035	281
VI 特別利益		1,349	72
VII 特別損失		506	653
税引前当期純損失		192	299
法人税、住民税及び事業税		7	8
法人税等調整額		—	△ 221
当期純損失		199	86
合併による未処理損失受入額		—	1,156
土地再評価差額金取崩高		—	827
当期末処理損失		199	415

損失処理

(単位：百万円)

科目	金額
当期末処理損失の処理	
当期末処理損失	199
これを次のとおり処理いたします	
次期繰越損失	199

トピックス

《新製品のご紹介》

第69期の下期につきましても、当社が考える健康の基本理念“浄化・循環・活性”に基づき、通信販売部門において新製品を開発・発売してまいりました。新製品は次の通りです。

○通信販売部門○

仁丹の『自然の力を利用して、より高い健康状態へ向かおうとすることが健康の基本』という考えに基づき、理想的なスタイルを応援する《大人の知的ダイエット》をコンセプトとしたダイエットサプリメント2品を発売いたしました。まずは当社と京都薬科大学との共同研究によりローズヒップの果実丸ごとに注目した「ベータ the ダイエット」です。普段の食事や運動不足が気になる方、食生活が不規則な方や外食の多い方へお勧めしています。次にサラシアレチキュラータエキス、ローズマリーエキス、ウーロン茶エキスの3成分からなる「アルファ the ダイエット」です。脂っこい食事や甘いものが好きな方にお勧めしています。

樹液と蜂の唾液を混ぜ合わせるにより作られた成分をソフトカプセルに包んだ「仁丹のプロポリス」を発売いたしました。フラボノイドを多く含み、健康維持に大いに役立ちます。

世界の大地三精、タクラマカン砂漠の『カンカ』、アンデス山脈の『マカ』、朝鮮半島の『高麗人蔘』、さらに『亜鉛』を配合した、厳しさに立ち向かう方の健やかな生活をサポートする「仁丹の闘²（トウトウ）」を発売いたしました。『カンカ』は厳しい指導管理の下で栽培・収穫されたものだけに与えられる「ホータン産カンカ産地地区政府証明証」のあるものを使用しています。



「ベータ the ダイエット」



「アルファ the ダイエット」



「仁丹のプロポリス」



「仁丹の闘²（トウトウ）」



「仁丹の艶²（つやつや）」

同じく『カンカ』を主成分とした、女性の自然な歳の流れをありのままに受け入れ、女性特有の変化をサポートするサプリメント「仁丹の艶²（つやつや）」を発売いたしました。心や体に変化が現れる時期がきた女性に、戸惑いや不安を軽減し、毎日を快適に、いつまでも健やかに過ごせるように応援するサプリメントです。

既存商品である「仁丹のナットウキナーゼ」、「仁丹のDHA/EPA」、「仁丹の紅麹」が一つになった「仁丹のさらさら」を発売いたしました。食生活が気になるけれど健康のために何を調べばいいのかわからないという方にお勧めしています。

2005年に発足した女性向け商品の専門開発チーム『ウーマン・ラボ』が開発した最初の商品である「パーフェクト マイセルフ」を発売いたしました。女性のリズムをサポートすることを目的としており、いつでも快適に過ごすためのセルフケアサプリメントとして、20～30代の女性の使用を想定しています。本商品に関しましては、製品コンセプト、価格の調整、味の調整まで『ウーマン・ラボ』が関わっています。

心地よい夜と爽やかな朝をサポートするサプリメント「美夢（BIM）」を発売いたしました。植物成分であるバレリアンエキスとテアニンが心地よい夜をサポートし、ロディオラエキスによって快適な朝を実感できます。心とカラダの変化を幅広くケアし、ストレスの多い現代人へのいきいきした健康生活を応援します。



「仁丹のさらさら」



「パーフェクト マイセルフ」



「美夢（BIM）」

今後とも高品質で皆様に愛される製品を開発、発売してまいります。

会社概要（平成18年3月31日現在）

役員

代表取締役社長	相原之壽
取締役名誉会長	森下美恵子
代表取締役専務	駒村純一
取締役	武貞文隆
取締役	森岡茂夫
監査役(常勤)	倉掛長吉
監査役	中西賢二
監査役	渡邊俣治
監査役	安田重次
執行役員	正田一市
執行役員	高田真一
執行役員	大上義光
執行役員	園井伸輔

(注) 1. 期末日以降の取締役の異動

①平成18年6月29日付で倉掛長吉、中西賢二が監査役を辞任いたしました。

②平成18年6月29日付で高橋優夫が監査役に選任され就任いたしました。

2. 監査役のうち渡邊俣治、安田重次の両氏は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

商号

森下仁丹株式会社
MORISHITA JINTAN CO., LTD.

資本金

35億3,740万円

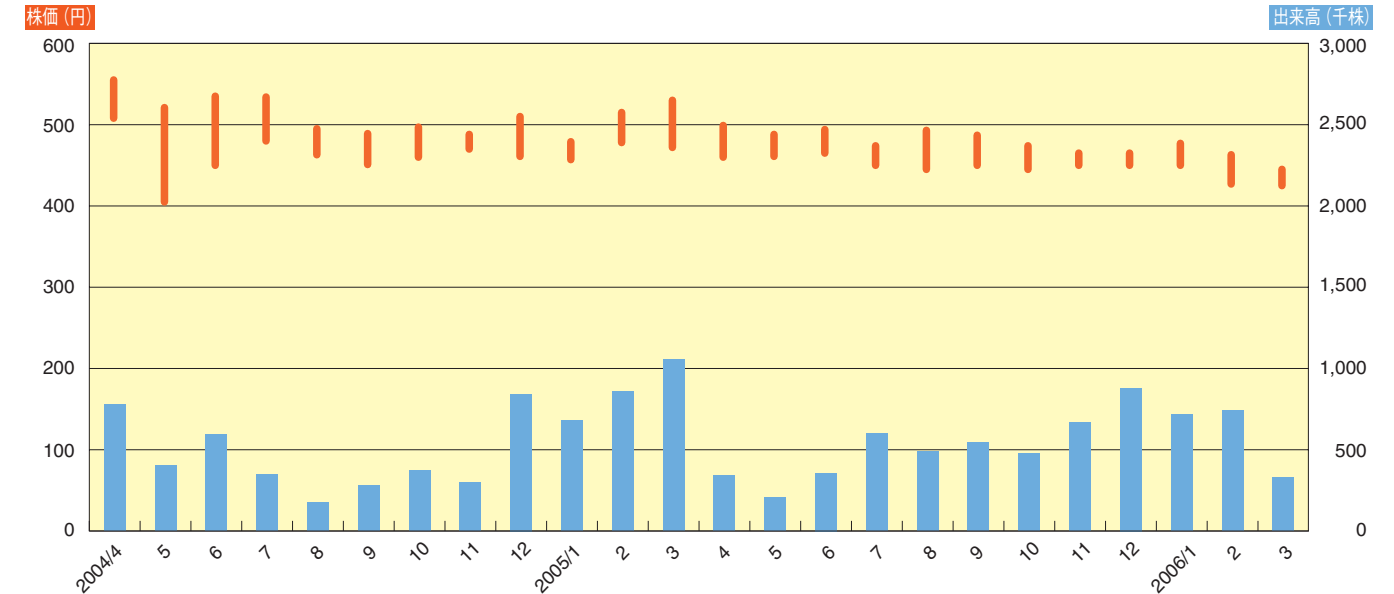
事業の内容

医薬品、医薬部外品、医療用具、化粧品、食品および雑貨等の製造販売

事業所および工場

本社	大阪市中央区玉造一丁目1番30号	電話(06)6761-1131(代表)
本社工場	大阪市中央区玉造一丁目1番30号	電話(06)6761-1135
仁丹ミラセル工場びわ湖	滋賀県犬上郡多賀町大字四手諏訪960番地12	電話(0749)48-7370

株価および出来高推移



株主メモ

事業年度末日	3月31日
剰余金受領株主確定日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
定時株主総会	6月中
公告掲載方法	日本経済新聞に掲載する
上場取引所	株式会社大阪証券取引所 市場第二部 株式会社東京証券取引所 市場第二部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
事務取扱場所	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話(通話料無料) 0120-094-777
取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店 ●株式関係のお手続きのご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。 電話(通話料無料) 0120-244-479 (本店証券代行部) 0120-684-479 (大阪証券代行部) インターネットホームページアドレス http://www.tr.mufg.jp/daikou/